

県民集会を成功させた知恵と力を 仲間づくりにも活かそう

3月23日、第5回常任理事会(12名参加)が開かれました。主な話し合いの内容は2・25集会のまとめ、県大会について、5・3憲法記念日の取り組み、県大会までの仲間づくり等でした。以下、報告します。

1. 米軍機F15くるな2・25県民集会

- (1)参加者一同の「よかった、感動した集会だった」一言が何よりも成功した事をあらわしてくれた。
- (2)34の各平和委員会すべてが積極的に動き、集会成功のために中心的役割を果たした。バス20数台のうち17~8台は平和委員会が中心となって出せた。この事は各民主団体と協力すれば1000名の集会を開く「力」を県平和委員会がもてることを意味しています。
- (3)取り組みを通じて、地元の方々や区長さんの理解と協力が得られたことが大きな力となりました。集会がきっかけとなり、騒音の激しい26地区で構成されている「対策協議会」が再開され、区長さんが先頭に署名運動を始めました。
- (4)要請行動・宣伝カーの活用・ポスター・チラシの配布等々の取り組みで各平和委員会のみなさんの奮闘は各団体に大きな刺激となり信頼を得ることになりました。会場のカンパも13万8千円と実行委員会のメンバーを驚かせました。
- (5)今後の取り組みについては、日米間・政府と地元など目まぐるしく変わる状況にあります。各団体・実行委員会で具体的に決めていくことにします。

2. 06年度県大会について

- (1)来年度の県大会は昨年12月の理事会で4月22日と

決めましたが、2・25集会等で準備がおくれ6月3日(土)に変更する事にします。但し、理事会決定ですので常任理事会で変更する事はできません。各理事の方々にその旨、お知らせし了解を得ることにしました。

(2) 県大会までの諸会議の日程は以下のとおりです。

- ・4/11(火)組織財政委員会：県大会までの仲間づくりを検討
- ・4/20(木)第6回常任理事会：運動方針・予算決算・役員体制等検討
- ・4/22(土)~23(日)日本平和委員会常任理事会
- ・4/29(土)~30(日)日本平和委員会理事会
- ・5/13(土)第6回理事会：大会提出の常任理事会案を検討
- ・6/3(土)茨城県平和委員会06年度大会
- ・6/17(土)~18(日)日本平和委員会06年度大会：於群馬県水上

3. 5月3日憲法記念日の取り組みについて

- (1)この2年間、平和委員会が事務局的作用を果たし、「5・3憲法フェスタ」を行ってきましたが、当初から平和擁護県民会議が参加せず、また昨年は憲法を生かす会が脱退し本来の意味合いをなくしてきました。今年は「まもり活かそう憲法フェスタ」実行委員会が幅広く呼びかけ準備しています。「憲法フェスタ」実行の構成団体もそちらに移行する意思表示もあり、「憲法フェスタ実行委員会」は解散する事になりました。

- (2)水戸千波湖畔で開かれる「憲法フェスタ」実行委員会に参加するかどうか、問題点を話し合いながら検討しました。細部のことについては事務局にまかすとして、参加していく方向になりました。また、各平和委員会が参加している各地域の「つどい」には従来どおりに積極的にかかわっていく事とします。

4. 県大会までの仲間づくり

- (1)昨年4月から99名の仲間を増やしていますが、退会者もかなりいます。現状は登録会員数(1011名)を多少割っています。組織財政委員会で各平和委員会の会員数の増減等を分析し、県大会までに1100名実現の対策方針を立て、常任理事会にはかり意思統一をしていきます。
- (2)各平和委員会でも引き続き仲間づくりの取り組みを具体化し強めていきます。

5. 新しい事務局体制について

加藤岑生代表理事が3月で職場を離れることになり、4月から週3日事務局に来てくれるようになりました。また、事務局長も常勤からやはり週3日の半専従にかかわることになります。新しい事務局の運営について今後きめていきます。

6. 県原水協副会長の推薦について

県原水協の総会で副会長のポストに平和委員会から推薦してほしいと依頼がありました。常任理事会として加藤代表理事を推薦しました。

以上



平和かわら版

平和新聞茨城版

433
月3回発行
2006.4.5

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



平和委員会(平和の会)に入会して、草の根平和運動に参加しませんか!

自衛隊と米軍の軍事一体化・戦争準備は新たな段階に入った

— 「米軍再編成」 その意味するもの —

昨年10月30日の朝日新聞は「軍事一体化、新段階」の見出しで次のように報道した。「日米両政府が29日まとめた日米軍再編の中間報告は、“基地の再配置”にとどまらず、“米軍・自衛隊再編”と言っていい。日米の軍事一体化は、基地の場所や作戦、訓練など、あらゆる面で“融合”へと向かっている。」とここで言われている中間報告とは「日米同盟・その未来のための変革と再編・中間報告」のことである。この中間報告は、1概観・2外観・役割・任務・能力・3兵力態勢の再編という3つの章からなっている。

しかし、事が戦争・基地問題・戦闘作戦計画という国民にとって最も重要な事であるにも関わらず、一般の我々には実にはわかりにくい。軍事専門家でも説明が充分でないため理解に戸惑うと思われる。一般の者にとっては尚更である。

まず、「日米同盟・その未来のための変革と再編・中間報告」というタイトルも、実際は日米軍事同盟・米軍と自衛隊の米軍主導による一体化・作戦計画、その未来のための変革と再編・と読み変えさなければいけない。

彼らの本音は次の冒頭の120字足らず臆面もなくあらわれている。

「(1)日米同盟は、日本の安全とアジア太平洋地域の平和と安全のために不可欠な基礎だ。
(2)同盟に基づいた緊密かつ協力的な関係は、世界における課題に効果的に対処する上で重要な役割を果たしており、
(3)安全保障環境の変化に応じて発展しなければならない」
()は伊達

以下、つぎのように読み直してみたい。

1. 「アジア太平洋地域」という言葉は、現行の日米安保条約によって日米軍の戦闘地域は「極東の範囲」限られたものを、橋本・クリントン両首脳が「日米安全保障共同宣言」(96年4月)で「アジア太平洋地域」という言葉で現行の日米安保条

約を事実上変えてしまったものである。(「安保再定義」等の言葉で誤魔化した事を思い出して貰いたい)

そして、テロ戦争と言われたアフガン戦争・イラク戦争で日本はアメリカの戦争に加担協力し立派にその同盟的役割を果たした。今後も「不可欠な基礎」と誇らしげに言明しているのである。

2. このように自衛隊による米軍への「後方支援」の緊密かつ世界に類をみない協力的な、アジア太平洋地域という範囲に留まらないで世界的・地球的規模で起こる戦争に「効果的に対処する上で重要な役割を果たしており」これからも果たすであろう。

3. 最後に「安全保障環境の変化の応じて」とは、アメリカの起こす戦争や紛争等そのたびごとに米軍と自衛隊はともに協力して戦争をしていかなければならない、という意味であろう。

4. このように、今回の「中間報告」は我々・日本人にとって、また憲法9条に照らして、見過ごすことの出来ないものである。なぜ、日米安保条約まで「事実上」改悪してまで米軍と自衛隊が一体化して戦争に向かうのか、中曽根元首相をして「俺も左よりになったのかなあ」と言わざるを得ない状況がどうして生まれてきたのか、このつぎはその答を歴史的な跡を追って探してみたい。

なお、「米軍再編・中間報告」の具体的内容に触れることができませんでした。平和新聞2月25日号の米軍再編特集号にやさしく図入りの解説が載っています。県平和委員会で300部取り寄せてあります。各平和委員会で学習会等で活用して頂きたいと思います。無料提供させていただきます。(伊達)



まもり活かそう憲法9条・教育基本法 県北市民のつどい

とき 4月15日(土)13時開場
ところ 常陸大宮市文化センターロゼホール

語り部 私の戦争体験記
お話 : 岡崎実さん(元大宮町教育長)
朗読劇 「あの日私は...1945 ヒロシマナガサキ」
出演 : 劇工房・橋の会 木村夫伎子さん
講演 憲法9条の伝書鳩に
講師 : 早乙女勝元さん

(作家 東京大空襲・戦災資料センター館長)

映画とお話のつどい - 「9条の会・しもつま」

- 結成総会

とき 4月15日(土) 午後1時
ところ 下妻市立図書館映像ホール
入場無料

内容

- ・準備会代表挨拶・経過報告
- ・ビデオ「9 NAINN 憲法9条は訴える！」上映
- ・講演 戸張順平さん(元茨城県弁護士会会長・弁護士)
- ・戦争体験のおはなし 飯塚照義さん(北大生在住)
- ・会発足・活動などの確認

て。め。の。い。な。ま。ー。め。り。の。本。上。事
め。飲。連。嗜。だ。資。有。に。務
る。み。中。ん。だ。金。ある。に。所
一。そ。に。で。と。一。開。大。補。の。に。の
本。し。方。ワ。飲。と。本。務。事
買。て、教。イ。め。開。開。飲。務。局
っ。嗜。え。ン。な。も。も。局。が。占
(ま) っ。嗜。え。ン。な。も。も。局。が。占
り。だ。の。資。金。補。完。の。昨。年。末
の。資。金。補。完。の。昨。年。末
本。ある。の。昨。年。末
上。に。ワ。イ。ン。の。機
事。務。局。の